

2026 年 2 月 2 日

知財・無形資産ガバナンス表彰（2025 年度）審査結果等について

一般社団法人知財・無形資産ガバナンス推進協会
知財・無形資産ガバナンス表彰審査委員会
同事務局

この度、知財・無形資産ガバナンス表彰審査委員会（委員長・渡部俊也 東京科学大学副学長（東京大学名誉教授））による厳正なる審査の結果、株式会社アシックスを最優秀賞、株式会社荏原製作所および日本電気株式会社（NEC）を優秀賞、株式会社イトーキ、貝印株式会社、株式会社 SCREEN ホールディングス（会社名表記は 50 音順）を特別賞として表彰することといたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

なお、本年度より応募制を採用し、自薦・他薦を含めたより多角的な視点から、日本企業のロールモデルとなる企業を選出いたしました。

1. 審査の経緯

一般社団法人 知財・無形資産ガバナンス推進協会（IPIAGPA、以下、同協会（前田絵理、伊藤淳両代表理事））は、知財・無形資産ガバナンスを実践し企業価値向上を図り、日本企業のロールモデルとなる活動を推進している企業 を表彰することで、知財・無形資産の戦略的活用に関する意欲を高め、知財・無形資産の投資・活用を促進する ことを目的に、2024 年 10 月に「知財・無形資産ガバナンス表彰」を創設しました。

第 2 回となる 2025 年度表彰では、日本に所在する企業（上場、非上場問わず）を対象に同表彰への応募を募りました。そして、自薦および他薦によりご応募いただいた企業の中から、応募時の記入フォーマット記載の情報を基に、2024 年度表彰と同様のプロセスおよび選定基準（「審査基準 10 項目¹」に基づく企業評価）に照らし、表彰審査委員会審査委員による厳正な審査を行いました。審査委員の投票の結果、表彰対象企業 6 社が選定され、かかる 6 社へのインタビュー調査を含めて審査委員会で改めて審議し、表彰内容（最優秀賞、優秀賞、特別賞）を決定いたしました。[^]

なお、2024 年度表彰と同様に、同審査委員会審査委員は、利益相反の観点からその審査の過程において以下①②③に該当する企業の審査は行いませんでした。

- ① 現在ならびに 10 年以内に自身が所属*したことがある企業（親会社、子会社、関係会社などグループ企業 を含む）

¹ 知財・無形資産ガバナンス推進協会（IPIAGPA）

- ② 現在ならびに最近（1 年以内）の主要な取引先や多額の金銭その他の財産を得ているコンサルティング先等
- ③ その他、利益相反に関する問題が実質的に発生すると考えられる企業

*所属：雇用契約関係のみならず、委任・請負等業務委託関係に基づく場合も含み、例えば社外取締役、任意の委員会委員等も該当します。

<ご参考>

✓ **表彰審査委員会審査委員の構成について：**

- ・ 中長期視点を有する国内外投資家が審査委員の過半を構成することで、知財・無形資産を将来の財務 価値、ひいては企業価値と結び付けて評価
- ・ 知財価値評価の専門家として大学教授、ビジネス関係者が加わることで、評価基準および選定方法に論理性・妥当性を確保

2. 受賞企業

以上、厳正なる審査の結果、表彰審査委員会は、2025 年度の表彰企業として次の企業を選定いたしました。

【最優秀賞】株式会社アシックス

【優秀賞】株式会社荏原製作所、日本電気株式会社（NEC）

【特別賞】株式会社イトーキ、貝印株式会社、株式会社 SCREEN ホールディングス
(※会社名表記は 50 音順)

3. 受賞各社の評価ポイント

受賞各社の評価ポイントは以下のとおりです。(※会社名表記は 50 音順)

【最優秀賞】株式会社アシックス

昨年度の優秀賞から、さらに「知財ガバナンスの高み」を目指した姿勢が極めて高く評価されました。

ガバナンス体制: 社長直轄の「知財戦略委員会」が形骸化せず、全執行役員が参集して有機的に機能している点が特筆されます。

経営との連動: 知財のみならず人的資本を含む広範な無形資産への投資が、経営基盤と企業価値向上に直結するという共通認識がトップマネジメント層に浸透しています。

ガイドラインの活用: 知財・無形資産ガバナンスガイドラインを「120%意識」し、高いアンテナを持って戦略をアップデートし続けている点も選定の決め手となりました。

【優秀賞】株式会社荏原製作所

知財 ROIC の浸透: 独自の「知財 ROIC」により、知財を経営資源として有効活用する考え方が着実に浸透しています。

AI 活用: AI を活用した「知財プロアクティブ活動」を推進し、財務指標（時価総額等）への繋がりを意識した透明性の高い情報開示が評価されました。

【優秀賞】日本電気株式会社（NEC）

財務・非財務の統合: CFO 主導で財務・非財務を統合し、将来キャッシュフローの最大化を目指す取り組みが評価されました。

ブランド再設計: DX ブランド「BluStellar」を核に、「売り物・売り方」を変える高収益化シナリオが明確に描かれています。また、すべてのコミュニケーション活動を企業ブランド構築の機会と捉えデザインしています。

【特別賞】株式会社イトーキ

非財務価値の重視: 業績低迷期から「人の価値」を重視し、自社のビジネスそのものを知財と捉え直した独自の経営スタイルが評価されました。

データ活用: Office 3.0 領域の特許出願比率を大幅に向上（4%→24%）させるなど、事業ポートフォリオの変革を実証しています。

【特別賞】貝印株式会社

非上場企業のロールモデル: 独自ブランド構築や表現を通じて、自社の強みを無形資産価値として高める取り組みを長年継続しています。トップの認識: 知財・無形資産という言葉が普及する以前から、経営層がその価値を深く認識し経営に組み込んできた実績が評価されました。

【特別賞】株式会社 SCREEN ホールディングス

全社的ガバナンス: CEO を委員長とする「知財戦略委員会」を設置し、マーケティングや財務、人事等の役員が参画する多角的な議論体制を構築しています。

戦略的投資: 成長投資比率を 80%に引き上げ、オープンイノベーションを通じた知財の再生産サイクルを確立しています。

4. 2026 年度知財・無形資産ガバナンス表彰について

2025 年度の審査過程などを踏まえ、現審査委員会委員および事務局にて、2026 年度の知財・無形資産 ガバナンス表彰の在り方について、応募企業数をさらに増やすための施策や企業規模・業界別表彰など含め検討を進めて参ります。2026 年度知財・無形資産ガバナ

ンス表彰につきましては、2026 年 5 月以降に弊協会ウェブサイトにてお知らせさせていただきます。

以上